

科目名称	プロフェッショナルスキル
授業コード	BG378
英語名称	
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	奥田 裕, 中山 彰博, 豊田 輝
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本講義ではProblem Based Learning (問題基盤型学習 以下、PBL) を用いて、理学療法の現場における事例・シナリオを体験することで、臨床能力として必要な思考過程が高められるように取り組む。特に、少人数でのグループ学習を行い、臨床で活用できる知識の習得、問題解決能力の向上、自己主導型学習態度の習得などのスキルの向上を目的としている。なお、臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた経験を活かして、理学療法士が対象とする中でも代表的疾患（骨関節疾患、中枢神経疾患）について、病態の理解および理学療法評価、治療方法について教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、各疾患の特徴や治療、および理学療法の組み立て方について理解を深めるよう講義する。
到達目標	代表的疾患（骨関節疾患、中枢神経疾患）に対する理学療法を進める上で、下記項目を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 症例提示から大まかな病態を理解できる。 ・ 基本情報や基本動作などから、関連する理学療法評価が挙げることができる。 ・ 症例基本情報から考えられる、実施されるべき評価項目の目的と意義を挙げることができる。 ・ 提示された検査結果から各検査結果の解釈ができる。 ・ 提示された症例の統合と解釈（ICF表の作成、目標設定とプログラム立案）。 これを実現するため、カリキュラムポリシーにあるグループワークを中心としたアクティブ・ラーニングを展開する。また、これによって、ディプロマポリシーにある理学療法評価法・治療法の獲得、及び問題解決能力を達成することができる。
計画・内容	第1回 オリエンテーション 担当：奥田,中山,豊田(全教員理学療法士) 第2回 症例1：情報収集,疾患調べ 担当：豊田,奥田,中山 第3回 症例1：疾患説明～動画視聴,動作観察 担当：豊田,奥田,中山 第4回 症例1：疾患説明～動画視聴,動作観察 担当：豊田,奥田,中山 第5回 症例1：樹形図作成～ICF作成 担当：豊田,奥田,中山 第6回 症例1：樹形図作成～ICF作成 担当：豊田,奥田,中山 第7回 症例1：ポートフォリオ作成(問題点,目標設定) 担当：豊田,奥田,中山 第8回 症例1：ポートフォリオ作成(問題点,目標設定) 担当：豊田,奥田,中山 第9回 症例2：疾患説明～動画視聴,動作観察 担当：奥田,豊田,中山 第10回 症例2：疾患説明～動画視聴,動作観察 担当：奥田,豊田,中山 第11回 症例2：樹形図作成～ICF作成 担当：奥田,豊田,中山 第12回 症例2：樹形図作成～ICF作成 担当：奥田,豊田,中山 第13回 症例2：ポートフォリオ作成(問題点,目標設定) 担当：奥田,豊田,中山 第14回 症例2：ポートフォリオ作成(問題点,目標設定) 担当：奥田,豊田,中山 第15回 グループワーク：ポートフォリオ作成(プログラム立案,症例1) 担当：豊田,奥田,中山 第16回 グループワーク：ポートフォリオ作成(プログラム立案,症例2) 担当：奥田,豊田,中山 第17回 グループワーク：具体的な理学療法プログラム作成 担当：豊田,奥田,中山 第18回 グループワーク：具体的な理学療法プログラム作成 担当：奥田,豊田,中山 第19回 グループワーク（最終発表準備） 担当：豊田,奥田,中山

計画・内容	<p>第20回 グループワーク（最終発表準備） 担当：奥田,中山,豊田</p> <p>第21回 最終発表（症例1 or 2の理学療法プログラムの実技プレゼンテーション） 担当：奥田,中山,豊田</p> <p>第22回 最終発表（症例1 or 2の理学療法プログラムの実技プレゼンテーション） 担当：奥田,中山,豊田</p> <p>第23回 最終発表（症例1 or 2の理学療法プログラムの実技プレゼンテーション） 担当：奥田,中山,豊田</p> <p>第24回 最終発表（症例1 or 2の理学療法プログラムの実技プレゼンテーション） 担当：奥田,中山,豊田</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方 ・症例提示後、グループワーク（学生間ディスカッション）を中心に行う。 ・ディスカッションの途中で公開型の質問を受け、教員から回答を与える。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、学習のポイントの確認とその解説を行い、理解度の振り返りを行う。 ・学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外学習(合計60時間程度) 予習：指示がある場合はそれに従う。 指示のない回は、タイトルまたはキーワードに関して基本的な理解を得ておくこと 復習：グループディスカッション内などで書き留めたメモをまとめ、ノートを作る。
教科書・参考書	<p>教科書：豊田輝(編)「症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト」羊土社</p> <p>参考書：特になし</p>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価方法と基準 課題・授業内テスト,課題（60%）発表（40%）, 出欠席状況、授業態度等も評価に加味する。
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、グループ単位での課題提出があり、学生の共通する疑問点等について次回の講義でフィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	グループディスカッションのため、欠席をしないように留意する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・提示された症例に関するグループ発表（40%）、課題・小テスト（60%）